

竹下復興大臣定例記者会見録
(平成27年4月7日(火) 10:00～10:07 於)復興庁)

1. 発言要旨

私からの報告は1点でございます。今週末の4月11日土曜日でございますが、諸般の事情が許せば岩手県を訪問する方向で調整をいたしております。28年度以降の復興事業のあり方については検討を始めておりますが、被災自治体の方々からさまざまな声が聞こえてきております。どうすればいいか、我々も被災自治体としっかりと議論をしながら、そして寄り添いながら対応していこうと考えております。以前から、地元の見解は聞くということは申し上げておりましたが、今般、私自身が被災地に出向いて県や関係市町村長に集まってもらい意見を伺おうと、このように考えているところでございます。私からは以上でございます。

2. 質疑応答

(問) 今の件ですけれども、11日に岩手を訪れるということですが、宮城と福島についてはどのようにお考えでしょうか。

(答) 今、日程を調整していただいております、いずれにしても行かなければならないと考えております。今のところ、日程がほぼ固まりつつあるのは、この11日の岩手だという報告を受けております。

(問) 今の関連なんですけれども、大臣はかねがね復興庁としての考え方をまとめた上で被災地との議論をしていくというようなお考えをこれまでおっしゃってきたと思うんですが、今回の訪問というのは、復興庁としての考え方を示した上で議論するという形になるのか、その前段の話なのかを確認させてください。

(答) 前段の話です。私自身まだ、今やっております作業は集中復興期間の総括の作業を今精力的に進めておりまして、まだ28年度以降について物が見え始めているという状況にはなっておりません。ですから、まず被災地の皆さん方の復興に対する現状認識と今後について意見を伺うということが一番大きな目的でございます。私自身かねがねさまざまお話ししてきたことも率直にお話をしながら被災自治体の皆さん方の意見をしっかりと受けとめていきたいと、こう考えているところであります。

(問) 先週も話題に出たんですが、檜葉町で昨日から準備宿泊が始まったんですが、改めてそれに対する受け止めと今後に対する期待をお聞かせください。

(答) 現場は私まだ見ておりませんが、今朝の報道を全て読ませていただきまして、始まったなという実感を持ち始めております。やはりふるさとに帰りたいたいと思っていられっ方の方に一日も早く帰っていただく環境を整える、そして、ふるさとを取り戻してもらうというのが復興の仕事だと、本当に改めてやらなきゃならんということを痛感いたしました次第でございます。が、しかし、今の準備宿泊の段階でやらなければならないことも色々見えてもきておりますし、もう全て整っていれば帰還をしていただければいいわけでありまして、まだ準備宿泊ということは、まだやらなければならない

ことは残っているということを、これも改めて痛感をいたした次第でございます。

(問) 今の檜葉町の件ですけれども、この檜葉の避難指示の解除というのが、通常であれば7月頃とか夏ぐらいだと見られていますけれども、この一つの檜葉町の解除が双葉郡全体に与える影響というか、双葉郡の復興の中で檜葉の解除というのはどのような位置づけになるのか、大臣はどういうふうにお考えですか。

(答) 特に双葉郡全体について意識をしているわけではありません。一つ一つできることから今やっていくことが大事であると、そのことがいい影響を及ぼすのか、あるいは悪い影響を及ぼすのか、それはやってみなければわかりませんし、その意味では川内村の解除のとき、あるいは今回、檜葉町の準備宿泊といった一つ一つできることをできる段階でやっていくというのが我々の仕事であって、将来こうこうこうなりますという見通しを持ってやっているわけでは残念ながらありません。

(以 上)